

令和4年度

日立市教育研究会

生活科・総合的な学習の時間研究部実践事例集



日立市教育研究会 生活科・総合的な学習の時間研究部

実践事例集の発行にあたって

新型コロナウイルス感染症への対策を講じながらの教育活動が始まって、3年になりました。各学校では、令和3年1月の中央教育審議会答申において示された「令和の日本型学校教育」の構築を目指して、ICTも活用しながら個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による教育活動に取り組まれているものと思います。これは、生活科・総合的な学習の時間が、従来から重視してきた学習活動が他教科等に広がり、実践されているということであり、これらの学びによって資質・能力を育成していくことになります。

しかしながら、身近な人や社会とかかわり、本物に触れる価値ある体験を大切にしてきた生活科や総合的な学習の時間においては、さまざまな制約を受けながらの学習活動が今年度も続きました。北部地区の先生方に紹介いただいた実践事例の中にも、地域の方とのふれあいや職場体験の難しさについてご苦労なされた様子がうかがえました。そのような中でも「できない」とあきらめるのではなく、子どもたちのために「できること」を見つけたり「できるように」創意工夫したりしながら教育活動を進められた先生方のご努力に改めて感謝申し上げます。

今年度も、夏季研修会を中止せざるを得ない状況でしたが、オンラインという形で日立市教育研究会総合発表会が実施できたことは大きな成果でした。星 由香先生(滑川小学校)の「ホタル」という身近な学習環境と地域の人財を生かした探究的・協働的な学び、矢吹 宏子先生(助川中学校)の自己の生き方を考えるための資質能力を育てる探究的な学習、石塚 理恵先生(台原中学校)の職場体験を軸として自己の生き方を考える総合的な学習の時間の取組など3人の先生方の発表は、コロナの影響により思うように研修の機会を得られなかった他の部員の先生方により刺激を与え、学びたいという意欲につながるものでした。オンラインという初めての試みに対し、事前の準備や打合せ、当日の進行等にご協力くださった運営委員の先生方にも本当にお世話になりました。

最後になりましたが、「令和4年度 生活科・総合的な学習の時間研究部実践事例集」が、北部地区の先生方のご協力のもと発行できますことに深く感謝申し上げます。子どもたちの学びのために、必要な人的・物的資源等を効果的に活用し、探求のプロセスを充実させた実践ばかりです。この実践事例集が、各校のさらなる充実した授業づくりにご活用いただければ幸いです。

令和5年2月

日立市教育研究会生活科・総合的な学習の時間研究部
部長 助川 浩美

日立市教育研究会

生活科・総合的な学習の時間研究部実践事例集 目次

【小学校】

1	日立市立滑川小学校	1
2	日立市立田尻小学校	3
3	日立市立日高小学校	5
4	日立市立豊浦小学校	7
5	日立市立櫛形小学校	9
6	日立市立山部小学校	11

【中学校】

1	日立市立滑川中学校	13
2	日立市立日高中学校	15
3	日立市立豊浦中学校	17
4	日立市立十王中学校	19
5	日立市立中里小中学校	21

「自分たちの地域のよさ」「主体的に学ぶことの楽しさ」が実感できる総合的な学習の時間

日立市立滑川小学校

1 はじめに

本校では、総合的な学習の時間の目指す児童像のひとつとして「探究的な学び方やものの見方、考え方を身に付け、自ら学習に取り組む子」としている。生活科や総合的な学習の時間では、コミュニケーション能力を高め他者と協力して取り組む児童の育成が図れるように、地域の人財やゲストティーチャーを招いた学習活動を積極的に取り入れている。今回は、第4学年「地域とともに環境づくり大作戦」（滑川ホタルの里作り）の活動事例について紹介する。地域の環境や人財を生かし、多くのさまざまな体験の中で他者と協力しながら、自ら学習に取り組めるように、支援しながら実践を行った。

2 資料（実践事例、写真等）

(1) ホタル研修会

ホタルの里作り委員会の方を招いて、滑川のホタルの昔の様子や数が減ってしまった原因、ホタルを増やすための努力などについて話を聞き、今後の学習への意欲を高めることができた。



＜ホタルの幼虫＞

(2) 北川清掃活動（毎月1回）

ホタルの里作り委員会の方々とともに、第4学年の児童がホタルの棲む北川の清掃活動を行っている。自分たちの手で北川をきれいにしていくことで、ホタルにはきれいな水が必要であることを実感し、北川だけではなく地域の環境を守ろうという意識が高まってきている。



ゴミ袋に葉っぱや木の枝を詰めて運びます。

(3) 中間まとめ

KJ法的な手法を用いて、中間まとめを行った。さらに調べたいことやより伝えたいことなどの課題が明確になった。友達の発表を聞き、多くの気づきがあり、学習が深められた。



< K J 法的手法 >



(4) 北川の生物調査（フィールドワーク）・水質調査

茨城県環境アドバイザーの川島省二先生・富田俊幸先生を招いて、北川に棲む生物や北川の水質検査を行った。実際に体験することで、主体的に学ぶ楽しさを味わうことができ、自ら課題を見付け活動する児童の姿が見られるようになった。



<生物調査（フィールドワーク）>



<水質調査>

(5) ホタル発表会

体験したことや調べたことをまとめ、学級や学年で発表した。次年度、活動を引き継ぐ第3学年の児童へも発表を行った。このように、次の学年へと活動が引き継がれ今年度で15年以上も続く活動となり、滑川小学校の特色でもある代表的な活動となっている。

<ホタル発表会>



3 成果と課題

身近な環境を学習素材としたことで、児童の地域への関心が高まり、自分の追求したい課題を見付け、進んで調べようとする力が付いた。地域の方々と共に活動を重ねることで、安心して質問したり学習に参加したりできる場が整えられ、児童の主体的な学びにつながられた。また、専門的な知識に触れ、実際に体験する活動を通して、探究していくことの楽しさや深い学びにつながられた。

今後の課題としては、児童自身が、与えられた環境や課題だけではなく、主体的に課題を見つけ他者と関わり、協働して課題を解決する有用感をもてるような活動や経験を重ねることが必要だと考える。また、ICTの積極的な活用ができるようにし、学習したことを地域へも発信していくことが必要だと考える。

1 はじめに

本校の教育目標は、「自ら学び心豊かでたくましい子の育成」である。その実現に向けて、生活科の学習では、豊かな感性を育むことをねらいとし、学習を進めている。ここで紹介する本校の実践事例は、アサガオを継続して栽培する活動を通して、植物に親しみをもち、大切に育てようという気持ちを高めることを目標とし、自分の育てているアサガオに愛着をもつための工夫を取り入れたものである。

2 生活科学習指導案

(1) 単元名 きれいにさいてね

(2) 本単元の目標

- ① 植物を継続的に栽培する活動を通して、植物は生命をもっていることや成長していることに気付くことができる。（知識及び技能）
- ② 植物を継続的に栽培する活動を通して、植物の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができる。（思考力、判断力、表現力等）
- ③ 植物を継続的に栽培する活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にすることができ
る。（学びに向かう力、人間性等）

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 自分の育てている植物が成長していることに気付いている。	① 今まで育てたことのある植物や身近な植物と比しながら、世話の仕方を選んでいる。	① きれいな花を咲かせたいという思いをもち、試行錯誤しながら植物の世話をしようとする。

(4) 単元について

① 教材観

本教材の重点指導事項は、学習指導要領の「キ 身近な自然との触れ合い」である。植物を育てる活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切に育てることができるようにすることを目指す単元である。

② 児童観

本学級は、外で遊んだり、虫や植物と触れ合ったりすることが好きな児童が多く、毎朝とても楽しそうに自分のあさがおに水をやりながら観察し、日々成長を喜んでいる。観察カードを書く際は、目・手・鼻を使い、色や形、さわ心地、においなどに注目し、小さな気付きや発見を言葉や絵で表現できる児童がいる。また、どうしたら元気に育つのか、なぜ水をあげないと枯れてしまうのかなど、植物の成長に興味をもち積極的に質問をする児童もいる。

③ 指導観

本単元の指導にあたっては、児童が書いた観察カードだけではなく、写真でもあさがおの成長の様子を提示することで、改めてあさがおの成長に気付き、今後のあさがおの成長や変化を予想できるようにしていきたい。また、継続して栽培をしていく中で、児童の気付きやつぶやきを取り入れヒントを与えることで、あさがおの成長には「水やり」「追肥」「支柱」「間引き」などいろいろな世話が必要であることに、自分たちで気付けるようにしたい。そして、今まで以上に親しみをもち、大切に育てようとする気持ちを養いたい。

(5) 単元の指導計画(8時間扱い) ○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価及び評価方法等
1	1 2	<u>たねをまこう</u> ・幼児期の栽培経験を教え合い、教科書を見て植物の種や花を確認し、あさがおを育てることを知る。 ・種を観察し、まく。	◎	○		思①: 日常での経験に思いを巡らせて、種のまき方を考えたりしている。【行動観察】 知①: 種の色や形、大きさなどの特徴に気付いている。【ワークシート、発言】
2	3	<u>せわをしよう</u> 〈常時活動〉 朝の時間や休み時間などを使って成長の様子を観察し、水やりの世話を続ける。 ・あさがおを、もっと元気に育てる作戦をたてる。 ・これからどのように成長していくか予想して絵を描く。 ・あさがおの気持ちを想像し、どんな世話をしたらいいか考える。 ・あさがおにメッセージを送る。	◎		◎	知①: 自分の育てている植物が成長していることに気付いている。【ワークシート、発言】 思①: 友達の育てている植物や身近な植物と比較しながら、世話の仕方を選んでいる。【ワークシート】
3	4 5	<u>はなのようすをつたえよう</u> 〈常時活動〉 朝の時間や休み時間などを使って、植物の世話を続けながら、成長の様子を観察する。 ・開花の様子を伝え合い、伝え合ったことをもとに記録カードにかく。	◎	○		知①: 自分が世話をしたことで、植物がきれいな花を咲かせたことに気付いている。【ワークシート、発言】 思①: 植物の成長の様子に見通しをもって、開花への期待を話したりかいたりしている。【ワークシート、発言】
4	6 7 8	<u>種をとろう</u> 〈常時活動〉 休み時間などを使って、植物を観察し、種を集める。 ・これまでにかいた記録カードを活用して、まとめの作品をつくり、友達と見せ合ってこれまでの栽培活動を振り返る。	○		◎	知①: 植物が一つの種からたくさんの種を増やし、生命をつないでいることに気付いている。【ワークシート】 態①: 植物の世話を続けられた自分の成長を実感し、これからも植物を育てていこうとしている。【行動観察】
5	9 10	<u>あきにもそだてよう</u> ・チューリップの球根を植える。 ・開花を楽しみにし、成長の様子を観察しながら、親しみをもって世話を続ける。			○	態①: 春から植物を育てられた自分の成長を実感し、秋にも育てていこうとしている。【発言、行動観察】

3 成果と課題

(1) 成果

- ・自分のアサガオに名前を付けて栽培したことで、愛着をもって育てることができた。
- ・自分が大切に育てることで、アサガオが確実に成長しているということに気づき、今後も大切に育てていきたいという意識をもつことができた。
- ・日々、小さな変化に喜びを感じ、友達と積極的に伝え合う姿が見られるようになった。

(2) 課題

- ・生活経験の差により、アサガオの成長した姿が想像できる児童と、全くできない児童がいた。必要な世話を考える際には、成長した姿を提示し、イメージがもてるようにしたい。
- ・今後の世話の手段を考える際、今回は選択式で行ったが、児童が自ら考える形式にし、さらに思考を促す活動を取り入れた授業を展開していきたい。

児童が生き生きと活動や体験に取り組む生活科の授業づくり
～「うごくうごく わたしのおもちゃ」を通して～

日立市立日高小学校

1 はじめに

本校では、「夢をもち 心豊かに たくましく生きる日高っ子の育成」を教育目標に掲げ、特色ある教育活動の充実・展開を図っている。その中で、生活科では身近な「人々、社会、自然」と直接かかわる活動を通して、楽しさとともに知的な気付きを引き出し、自立し生活を豊かにするための資質・能力を育成することを目指している。

今回は第2学年の「うごくうごく わたしのおもちゃ」の事例を紹介する。「比べる」「見通す」「工夫する」「試す」などの多様な学習活動を取り入れた授業展開に重点をおき、おもちゃが動く不思議や面白さに気付くことをねらいとしている。また遊びをとおして友達とスムーズに関われるように、お互いのおもちゃで遊び合ったりアドバイスしたりする場面を多く設けていく。

2 実践事例

(1) 単元「うごくうごく わたしのおもちゃ ～おもちゃランドをひらこう～」

(2) 目標

- 身近な材料でおもちゃを作ったり工夫したりすることの面白さ、互いに交流することの楽しさに気付くことができる。
- おもちゃ作りや遊び方を工夫したり、気付いたことを絵や言葉で表現したりすることができる。
- おもちゃ作りや遊ぶ活動を通して、友達と楽しみながら遊びを創り出そうとする。

(3) 単元設定にあたって

① 指導にあたって

本学級の児童は、生活科の学習に意欲的に取り組んでいる。ものを作ることが好きな児童が多く、休み時間に自然物や余り紙などで工作したり遊んだりする姿が見られる。しかし日頃の遊びとしては、ゲームや既成のおもちゃによる遊びが多く、手作りのおもちゃを作ったり遊んだりした経験は少ない。5月単元「なかよし集会をしよう」では、友達と遊びを計画したり、1年生といっしょに遊んだりする活動を行った。いっしょに遊ぶことの楽しさを実感することができたが、「上手く話せない」「友達になれるか不安」などの理由から発表や他学年との交流に苦手意識を感じている児童もみられる。

本単元では、作ったおもちゃを友達と試したり比べたりする活動を通して、改善点を教え合う活動を大切にしたい。1年生との交流に向け、繰り返し試行錯誤することで、自分の作ったおもちゃに自信をもち、楽しく交流することができるようにしたい。

② 指導計画（15時間扱い）

学習活動	支援と留意事項
「おもちゃを作ろう」（4時間） ・おもちゃを作り、試し遊びをする。	・道具の使い方を掲示したり、遊ぶ場所を決めるなど安全面での配慮をする。

「おもちゃをパワーアップさせよう」 (6時間・本時) ・おもちゃを改良し、試し遊びをする。 ・遊び方のルールや約束を決めて、準備をする。	・一人一人の工夫点や思い、疑問を丁寧に聞くことで、一人一人が意欲と自信をもって活動できるようにする。
「おもちゃランドをひらこう」 (5時間) ・1年生との交流の準備をし、いっしょに遊ぶ。	・1年生のことを思いながらルールを分かりやすくしたりおもちゃを増やすよう助言する。

(4) 本時の指導

- ① 目標 作ったおもちゃで友だちと遊んだり比べたりしながら、おもちゃを改良することができる。
- ② 展開

学習活動・内容	支援の手立てと評価
1 前時までの学習を振り返る。 2 学習内容をつかみ、学習の見通しをもつ。 課題 自分のおもちゃをパワーアップさせよう 3 おもちゃで遊び、改良する。 (1) 自分の作ったおもちゃで友達と遊ぶ。 (2) 遊んで気付いたよいところやアドバイスについて話し合う。 (3) アドバイスを受け、おもちゃを改良し試し遊びをする。 4 振り返りカードを記入し、次時への見通しをもつ。 まとめ ためしてあそんだり、友だちとくらべたりすることで、おもちゃをパワーアップさせることができる。	・前時の学習を振り返り、どんなおもちゃにしたいか想起させる。(もっと速く、もっと高等) ・見通しをもって活動に参加できるように「材料を変えたり増やしたりする」「友達と比べる」などのキーワードを確認する。 ・目的意識をもって活動に参加できるように、活動の前におもちゃの改良や遊び方を考えて遊ぶよう伝える。 評：自分のおもちゃを「もっと〇〇する」ための工夫を見つけようとしている。 (発言・行動観察・ワークシート) ・個々の気付きや他のおもちゃの工夫を聞き合うことで、おもちゃ作りのヒントにしたり、次時の活動の見通しにつなげていけるようにする。

3 成果と課題

(1) 成果

おもちゃ作りでは、材料や作り方を変えたり、得点や的など遊び方やルールを決めたりして、遊びをよりよくしようと工夫することができた。友達とお互いのおもちゃで遊ぶ活動において、自分のものと比較し、試したり、工夫したりする姿が見られた。その中で、友達のおもちゃのよいところやアドバイスをスムーズに伝えることもできていた。最後の「おもちゃランド」では、1年生を招待し、作ったおもちゃと一緒に遊ぶことができた。1年生の笑顔や「楽しかった。」の声を聞くことで、大きな達成感を感じることができていた。

(2) 課題

おもちゃがなぜ動くのか、動く仕組みなどに気付かせることが課題である。材料や作り方を変えて改良することはできていたが、風やゴム、磁力、重さの力に注目したり、「なぜ動くのか」と疑問をもつことは難しかった。第3学年の理科の学習につながる内容でもあるため、素材の特徴や動く仕組みに疑問が芽生えるような活動を行っていきたい。



探求的な見方・考え方をもち、自立した生活を豊かにしていくための資質・能力の育成を目指した学習指導の工夫の在り方

日立市立豊浦小学校

1 はじめに

本校の生活科の学習の時間では、体験的な学習の場を通して、身近な自然や人、地域との関わりを深められる指導方法の工夫を努力目標としている。また、児童が観察・体験した活動を振り返ったり、発表したりする手立てとして、タブレットを使った学習を取り入れることで、テーマに迫ることができると考え、実践を行った。

2 実践事例

(1) 単元名 きれいにさいてね

(2) 指導にあたって

観察を通して、花が咲いた後には、種ができることや、数粒の種から数多くの種が取れることに気付かせることで、植物の成長や、生命がつながっていくことについて考えられるようにしたい。また、論理的思考を育むための活動として、あさがおの成長の写真や今までの観察記録を見直し、気付いたことをグループで話し合う活動を取り入れるようにする。そして、種から始まった命が、種に戻り、またつながっていくという気付きを引き出せるようにしたい。

(3) 指導計画 (8時間扱い)

時	主な学習内容	指導上の配慮事項	評価規準
1 2	・種をまく。	・児童の目に触れやすい栽培場所を確保し、日当たりなどにも注意をする。	・種の色や形、大きさなどの特徴に気付いている。 ・発芽や成長への期待を絵や文で表現している。
3	・世話をする。	・継続的に世話ができるように朝や休み時間を活用できるように配慮する。	・水やりだけでなく、支柱や追肥など、成長に合わせて継続的に世話をしている。
4 5	・あさがおの様子を伝える。	・変化があったときに学習カードに記入するようにする。	・葉の数が増えたり、つぼみや開花したことへの喜びを伝えたりしている。
6 7	・種をとり、色や形・大きさや数などを調べる。	・集めた種の数について調べる際は、算数の「10より大きい数」との関連を図るようにする。	・種の色や形、大きさや数などについて、分かったことを表現している。
8 本時	・これまでの栽培活動を振り返る。	・写真や観察記録を見直すなどして、これまでの成長の様子を思い出せるようにする。	・植物は、種をつくり生命をつないでいることに気付いている。 ・育ててきた植物のことや心を寄せて世話をしてきたことなどを振り返り、表現している。

(4) 本時の指導

① 目 標

これまでの観察記録や写真などを見直して、あさがおの変化や成長の様子、生命がつながっていることに気付くことができる。

② 準備・資料

・あさがおの種
・タブレット

・ワークシート

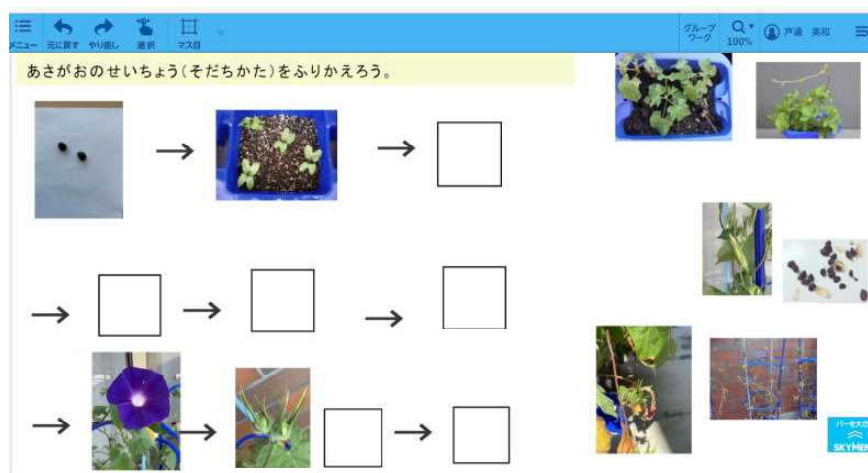
・あさがおの写真

③ 展 開 学 習 活 動 ・ 内 容	☆「論理的思考力を育む働きかけ」 指導上の配慮と支援 ○評価
1 本時の学習課題を確認する。 あさがおの せいちょうを ふりかえろう。 2 あさがおの成長を順番に並べる。 (1)これまでの観察記録を見直して、成長の様子を順番に並べる。 ①種をまく ②芽が出る。 ③葉が増える。 ④つるが伸びる。 ⑤つぼみができる。 ⑥花が咲く。 ⑦枯れる。 ⑧種ができる。 (2)成長の様子で気付いたことについてグループで話し合う。 ・成長の順番はどのあさがおも同じ。 ・まいた種と同じ種ができた。 ・一粒の種から多くの種ができた。 ・花の色が違っていても、種の色は同じ。 3 本時のまとめをする あさがおがそだつじゅんぱんがあり、種をつくることで、いのちがつながっていく。 4 本時の学習を振り返る。 ・あさがおの種をプレゼントしよう。	・これまでのあさがおの成長を振り返ることを確認する。 ・タブレットを用いて、成長の様子の写真を順番に並べ替えて考えられるようにする。 ・ワークシートには簡単な言葉を記入すればいいことにする。 ☆観察記録を順番に並べることで、部分的に見ていた成長の様子がつながり、理解を深められようにする。 ・取れた種は、最初にまいた種と比べて、色・形・大きさがどうなのか具体的な観点を提示して考えられるようにする。 ・話し合いに参加することが難しい児童には自分の観察記録をもう一度見直すように助言する。 ☆グループでの話し合い活動を通して、あさがおの成長の様子に気付くことができるようにする。 ☆各グループから1名抽出し、クラス全体で共有することで、児童の気づきをより深められるようにする。 ○あさがおの変化や成長の様子、生命がつながっていることに気付いている。 (ワークシート、発表) ・来年の一年生に種のプレゼントをするための準備をすることを伝える。

3 成果と課題

成長の様子を写真で記録しておいたことで、振り返りがしやすくなり、スカイメニューなどのデジタルコンテンツを活用することで、児童の興味・関心が高まった。写真をドラッグするだけで、順番を変えられるようにしたので、ほとんどの児童が並べ替えることができていた。また、発表に電子黒板を使うことで、発表の内容が分かりやすくなったり、発表が苦手な児童でも抵抗なく発表することができたりした。

課題としては、グループでの話し合いが深まらずに、分かったことを発表するだけで終わってしまった。児童の気づきや疑問が広がるように、質問や意見を言う場を設けるなどの改善が必要だと感じた。



あさがおのせいちょう(そだちかた)をふりかえろう。

<きれいにさいてね>

あま

1. あさがおのせいちょう(そだちかた)を ふりかえろう

たね

め

は

がでる がえる

つる

つぼみ

はな

がのびる がでる がさく

はながしおれる

たね

かれる

がでる がえる

2. せいちょうをふりかえって きづいたこと

たねも2こさうえてなかったのに、はなが1つはいてできたので、すういとおもいました。

3. あさがおを そだてた ひと

2のたねで、たねさんたねか、それたね、そだたね、また、らいなんもあさがおをそだてたいです。

実践力としての生きる力を育むための学習過程の在り方
～身近な学習素材を生かして 第3学年の実践から～

日立市立櫛形小学校

1 はじめに

本校は、総合的な学習の時間を「いぶきタイム」と称し、各学年の実態に応じて学習を展開している。「いぶきタイム」の目標は探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を地域社会との連携を図り育成することを目指している。

今回は、第3学年の「みんなにやさしい十王町」の実践を報告する。

2 単元名 みんなにやさしい十王町～福祉体験～

3 目標

- ・十王町探検を通して、自分の住んでいる十王町がいろいろな人のことを考えて工夫されていることや、福祉体験を通して、さまざまな人の困難さやそれに対応するための工夫について気付くことができる。（知識及び技能）
- ・みんなにやさしい十王町の視点で調べたいことや興味があることを見つけ、調査の計画や方法を考え、相手意識をもって調査する。また、福祉体験活動を行ったり、感じたことや気付いたことを分かりやすくまとめたりして発表することができる。（思考力・判断力・表現力）
- ・調査・体験活動を行い、友達と話し合い協力しながら計画的に活動し、自分たちに行えることを考え実践しようとするすることができる。（学びに向かう力・人間性等）

4 指導観

本単元では、十王町探検や福祉体験活動を通して、自分の課題に気付けるとともに、学んだことを学習や生活に生かし、よりよい社会参画の仕方を考えることができるようにしたい。また、自分たちの地域である十王町への興味・関心を高め、大切にしたい。

5 指導の計画

	1 学期	2 学期	3 学期
主 な 活 動 内 容	・オリエンテーション ・イメージマップ ・十王町探検 ・探検のまとめ ・振り返りと見通し	・オリエンテーション ・計画、準備 ・福祉体験 ・振り返りと見通し	・発表会計画、準備、練習 ・1年間の振り返り、来年度の見通し

6 1・2学期の実践

主な実践内容	
○十王町探検・・・【情報の収集】 学校周辺（市役所、交流センター、郵便局、十王駅等）を探検し、身近にある福祉を見つけ、興味・関心を高めることができた。	
○探検のまとめ・・・【情報の収集】【整理・分析】 十王町を探検して気が付いたことを書き出し、見つけた福祉について話し合い、分類していくことでどのような工夫がされているかを整理することができた。	
○福祉体験に向けての計画・準備・・・【情報の収集】 ①インターネットを活用して調べた。タブレットPCを使い、福祉体験活動で扱うものや、町探検で見つけた福祉についての知識を身に付けることができた。 ②図書室の本を利用して、自分の調べたいことに関する本を探し、熱心に調べ学習を進めることができた。	
○福祉体験・・・【情報収集】【課題の設定】 高齢者疑似体験、車椅子体験、白杖体験、点字体験、手話体験を通して、それぞれの立場に立って考えることができた。様々な人の困難さや工夫があることに気付くことができる体験となった。体験を通して自分が一番興味の持ったものについて課題を設定するきっかけとなった。	
○福祉体験の振り返りと見通し・・・【情報収集】【まとめ・表現】 福祉体験を通して、自分の設定した課題について調べたこと、自分にできることをスライドにまとめ、学級内で発表をした。3学期の異学年交流に向けた準備としてよい機会となった。	

7 成果と課題

- ・自分たちの住んでいる十王町の探検へ行くことによって、興味・関心、活動に関する意欲を高めることができた。「十王町だけではなくほかの地域にも様々な人が住みやすい工夫がされているのか」「さまざまな人が生活しやすくするために自分たちにできることは何か」など課題意識をもつことにつながった。
- ・探究的な学習の過程（①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現）を意識し、さまざまな学習活動に取り組むことができた。しかし、タブレットPCを使った活動ではスキルの個人差が出てしまい、進捗状況に影響があったため、学年に応じた工夫が今後の課題である。

1 はじめに

本校は、完全複式学級で1・2年生、3・4年生、5・6年生と特別支援が2学級の5学級で構成されている。数年後には近隣の小学校と統合される計画があり、児童数の減少や特別支援学級の増設など、児童を取り巻く環境が近年大きく変化している。また、複式学級としてA年度B年度の年度方式で学習を進めており、今年度はB年度として偶数学年の学習内容（1・2年生は2年生の生活科、3・4年生は4年生の総合等）を実施している。小規模校のよさとして児童の実態に合った指導ができる反面、学年による発達段階の差等から学び合いや考えを深める活動への難しさがある。また、1・2年生は2年生の生活科を学習するため、前年の学習内容も確認しながら指導し、内容を飛び越えた1年生の児童が戸惑わず学習できるような配慮と個別の支援が必要となる。3～6年生も同様である。

児童数が少ないことで、運動会やフェスティバル（秋の文化的行事）、愛校活動はPTAだけでなく地域の方々も参加してくださり、児童は豊かな自然と身近な人々に温かく見守られながら成長している。こうした地域の力と体験活動を重視して、一人一人が主体的に学べるような取り組みを行っている。

2 資料

（1）実践事例 「山部探検をしよう」

- ① ねらい 地域の方の案内や話から、山部地区の様子や地域の歴史について学び知ることができる。
- ② 講 師 地域の方2名
- ③ 内 容 地域の地図をもとに北方面、南方面と2日にわたって学区探検を行った。各探検日には地域の方にも講師として一緒に歩いてもらい、山部地区にある吉田神社の歴史や東日本大震災のときの地域の様子、炭鉱跡での石炭拾いや当時のトロッコの様子等、現地で話を聞き、自分たちの住む山部地区への理解を深めた。その後、茨城新聞社のNIE出前授業で新聞の構成を学び、その知識を生かして探検新聞にまとめた。



【山部炭鉱 洗炭場、滑車等 跡地】



【常磐自動車道上の十文字橋】



【山部小学校発祥の地】



【茨城新聞社による新聞学習】

(2) 実践事例 「山部の活躍している人を調べよう」

- ① ねらい 山部小出身の方から仕事内容について話を聞くことで、様々な職業への興味・関心を高めたり、愛校心を深め希望をもって学校生活を送ったりすることができる。
- ② 講 師 山部小出身者 1 名
- ③ 内 容 山部小出身者から、現在の職業や、山部小での思い出や子どものときに努力し、今に生かされていること等について聞く体験活動を行った。警察官の仕事内容や仕事に対する心構え、山部小で好きだった場所や教科の話等を聞くことで、職業に対する理解や将来の夢について調べたいという意欲を高めた。また、今と昔の山部小について比較検討し、自分達も山部小を大切に守っていきたいという気持ちも高めた。その後、体験から得たこと、調べたことを「山部小のすごい人新聞」にまとめた。



【児童から現在の山部小の紹介】



【職業のことや思い出を聞くお話会】

3 成果と課題

(1) 成果

ウィズコロナの体制に変化しつつあった今年度、地域の方とふれあう体験では、個々が主体的に動き、山部炭鉱の歴史や警察官の職業等についてくわしく知りたい気持ちをもって質問できるようになる成長が見られた。新聞にまとめる学習を通して、わかりやすく相手に伝えたいという思いをもち、新聞の書き方にも様々な工夫が見られた。

(2) 課題

地域の方の高齢化によって、交流・体験活動の機会が減りつつある。山部の歴史を継承していける方法を学校でも試行錯誤していくことが必要である。

1 はじめに

本校では、教育目標を「『強く・豊かに・正しく』生きる たくましい生徒の育成」とし「自ら体を鍛え、健康で安全な生活を送る生徒」「進んで学び合い、確かな学力をもった生徒」「判断力をもち、主体的に行動する生徒」を目指す生徒像として、日々の教育活動に取り組んでいる。第2学年では、「未来への生き方を考えよう～職業体験学習を通して～」というテーマで、自分の将来の生き方について考える活動を行った。

2 資料（指導案、写真等）

(1) 本時の目標

○自分で考えた働くことの意義と他者が考える働くことの意義には違いがあることに気付くことができる。
(知識及び技能)

(2) 準備・資料

・PC ・プロジェクター ・ワークシート ・1人1台端末

(3) 展開

学習内容と学習活動	○指導・支援・留意点◆評価規準と方法
1 学習課題をつかむ。 人は何のために働くのだろう	○これまでの職業についての学習を振り返ることで、本時の学習につながりを感じることができるようにする。
2 動画を見る。	○実際に働く人の喜びや苦勞を知ることで、次の活動でキーワードが思いつきやすいようにする。
3 働く理由や目的を表すキーワードを考え提案する。 ・各自で考える。 ・班で1つ提案する。 ・クラス全体で共有する。	○「何のために働くのか」と問いかける。 ○思いつきにくい生徒に対しては、身近で働いている人を想像させる。 ○キーワードが偏った場合は、教師からも提案する。 ○キーワードを黒板に掲示していく。
4 ダイヤモンドランキングを行う。 ・各自でダイヤモンドランキングを行う。 ・班で話し合い、ダイヤモンドランキングを行う。 ・班ごとにランキング結果について感想を発表する。	○ダイヤモンドランキングの作り方を説明する。 ○自分の考えがまとまるよう、十分な時間をとる。 ○他の人と違っていいことを伝え、理由も考えられるようにする。 ○ランキング作りには1人1台端末を使用し、後にクラスで共有できるようにする。 ○少人数の班にすることで、各自の意見が発表しやすいようにする。

(例)

お金		
貢献		名声
人脈	義務	やりがい
成長		注目度
プライベート		

5 本時の学習のまとめをする。

- ・ワークシートに振り返りを記入し発表する。
- ・本時の学習のまとめをする。

働く理由・目的には人それぞれ違った価値観がある。

○全員の考えを最後まで聞くよう助言する。
 ○「違う意見を否定しない」「多数決では決めない」「少人数の意見は貴重なのでよく聞く」など発表時の注意点を伝える。
 ○意見を聞いてなるほどと思ったら自分の考えを変えてもよいことを伝える。

◆評価規準

自分で考えた働くことの意義と他者が考える働くことの意義には違いがあることに気付くことができる。

(知識・技能)

【ワークシート、観察】

○仕事の内容や個人によって働く理由や目的がことなることに気付かせる。
 ○本時の活動を称賛し、今後の学習への意欲を高める。



《海上保安局での体験》



《かしむらファームでの体験》



《発表会の様子》

3 成果と課題

- ・職場体験の前に職業についての理解を深め、働くことの意味について考えを深めることができた。
- ・体験後のまとめは、パワーポイントを使い個人で行った。各自で体験を振り返りながら、自分自身の考えをまとめることで、表現力が向上した。
- ・発表会は1人1人で行うことで、友達に頼らずに活動することができた。また、異なる職場の発表を多く聞き、仕事について知ることができた。
- ・コロナウイルス感染症対策のため、飲食店や美容室での体験ができなかった。濃厚接触者になり体験できない生徒が出てしまった。
- ・近隣の学校との調整が上手くいかず、図書館や市役所など事業所数の少ない職場での体験ができなかった。

1 はじめに

本校では、教育目標「心豊かに健やかで、たくましく行動できる生徒の育成」の具現化を目指している。「総合的な学習の時間」の中では、職業について興味をもって調べたり体験したりすることを通し、一人一人が自分と向き合い、将来についてじっくりと考えることができる生徒の育成を目指している。そのキャリア教育の実践として、2学年の職場体験学習は生徒にとって有意義な学習であるが、ここ3年間は、コロナの影響で実施できていない。

できるだけ体験に近い学習を実施するため、総合的な学習の時間に行ってきたことについてまとめていきたい。

2 資料

職場体験学習では、体験活動を通して、課題の解決の仕方を学ばせ、主体的に自己の生き方について考えていけるようにするという大きな目的がある。この活動を通し、生徒は自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、問題を解決する力などを育てることができ、将来の仕事について意識することができる。また、自分に合った職業を選択し体験するという活動は、自分を見つめ直し理解する上でも意義のある学習である。

そこで、職場体験学習の代替えの学習として、職業調べを行ったり、職業に就いてる人を招いて話を聞く機会を設けたりする等の活動を実施することにした。また、そこから学んだことを発表会の形式で発表する機会をもつことにした。ひとつひとつの仕事が「何のために行われているのか」「なぜその仕事を行うのか」を調べたり、話を聞く機会を設けたりすることによって、職業への興味を高めていき、「人はなぜ働くのか」について考えさせていく。

(1) 職業調べ



タブレットを使った職業調べ

総合的な学習の時間 職業調べ (まとめ)
2年 1組 22番(名前)

◎ 自分が将来働きたい職業をまとめよう

職業 | キャビンアテンダント(CA)

仕事内容

1 機内サービス業務 ・飲み物などの提供 ・機内販売 ・機内アナウンス	2 保安業務 ・旅客搭乗前の機内確認 ・ドア開閉操作 ・非常用設備案内 ・離着陸前の安全確認
--	--

なるために必要な資格

TOEIC 600点以上 英検 2級程度
(英語テスト専業)

↓
基準

役立つ資格

手話技能検定、中国語検定、サービス介助士、救命講習 など

資格より必要なのは「人間力」!!

平均年間賃金: 約153万円
平均月収: 約31万円
平均年収: 約526万円

職業調べワークシート

職業調べでは、自分が将来就きたい職業や興味をもっている職業について、タブレットを用いて調べさせた。タブレットを活用することで、多くの資料・情報を得ることができ、有意義な活動となった。

(2) 職業人に話を聞く会



美容業



ホテル・旅館業

職業人に話を聞く会では、4業種の職業人を招いて自分が話を聞きたい講座に参加した。働いている人たちから仕事の話を知ったり、実際に体験をしたりすることによって、職業に対する意識を高め、自分の将来に向けての見通しをもつことができた。

(3) 職業調べ発表会



発表会に向けて練習の様子

3 成果と課題

今年度は、生徒たちの職場への受け入れが難しく、職場体験学習が実施できなかった。しかし、代替えの学習を行うことによって、生徒は職業に対する意識を高め、自分の将来に向けて見通しがもてる活動を十分に行うことができた。体験活動を実施できることが一番有効な学習だが、できなかった場合の活動として、このような活動を実践できたことは大変有意義だった。職場調べや発表会の準備を時間をかけて十分に学習できたことや、職場の方に来ていただいて話を聞くことなど、実際に職場に行っても十分に職業に対する意識を高める学習ができることがわかった。

2学年 総合的な学習の時間

職業人に話を聞く会

2生「組」番 氏名

講座(職業) 美容業

※ 話を聞くこと・体験を積極的に行うことが大事です!!!
(メモをとることだけに集中しない)

※メモ用紙

★メモ
国家試験 カット・シェアー・トリートメント・メイク
2～3年で美容師 全国25万件
自分も含め、たまたまで働くのが大変!!

成金期	下準備期	営業期	1日約0.35ミ	毎日
3～5年	2～3週間	9ヶ月	1ヶ月 15分	50～100分

たんぱく質 80～85% 水分11%～13%
メラニン9.5% 脂質1～6%
かき色 少し明るく白が

職業人に話を聞く会ワークシート

学習のまとめの活動においては、グループ活動を取り入れてまとめた。まとめたものを3学期の授業参観で発表する予定となっている。

相互に発表を聞くことによって、様々な考え方や意見にふれられるようにする。また、働くことの楽しさや厳しさについて改めて知ることができるようにするとともに、勤労や職業について関心や意欲を高めることを目的とした。

3 i 「学び合い・高め合い・磨き合い」(自ら気づき・学び・発信する時間)を育む
総合的な学習の時間の実践 ～第2学年職場体験学習を通して～

日立市立豊浦中学校

1 はじめに

本校では、教育目標を3iプランとし、「学び合い」(主体的に学ぶ授業づくり)、「高め合い」(目標に向かって努力し、支え合う集団づくり)、「磨き合い」(自ら健康・体力の向上に取り組める環境づくり)を掲げ、生徒一人一人の思いに寄り添い、ぬくもりと愛情をもって支援することを目指し、日々教育活動に取り組んでいる。

学習指導要領では、「探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成すること」を目標としている。2学年の総合的な学習の時間において、職場体験学習を通して、働くことの意義や役割、人との関わり合いの大切さなどに気付かせ、現在及び将来について主体的に自己の生き方について考える探求的な学習を実践した。

2 資料

(1) 1学年「働く人に聞いてみよう」

- ① 職業調べ学習
- ② インターネットサイト「あしたね」の活用
(自分の興味・関心・適正、様々な職業について知る・生きがい)
- ③ 働く人にインタビュー

身近な人に今の職業についての理由や良かったこと、大変だったこと、何のために働いているか、どんな人がこの職業に向いているかなどインタビューを実施

(2) 2学年「職場体験学習」－ 元気とようら (地域とわたしたちの関係に気づこう) －

- ① 働くことについて考える (各学級) … 4月
意義や役割、価値観、生きがい、勤労観・職業観
- ② 職場体験学習オリエンテーション… 5月
学年集会で「職場体験までの流れ」を提示し、生徒が見通しをもって職場体験活動を行えるよう支援した。
- ③ 職場体験希望業種アンケート)
生徒の希望職種や職業について事前アンケートを行った。
- ④ 事業所の決定、体験場所についての理解
アンケートをもとに受け入れ事業所を選定し、「豊浦中学校ハローワーク」として廊下に掲示した。タブレットを使用し、自分の興味・関心のある事業所について調べた。職場体験学習集会で希望の事業所ごとに集まり、人数の多いところは第2希望も考慮しながら事業所を決定した。
- ⑤ エントリーシートの作成… 6月
自分の長所や適性を考えながらエントリーシートを作成した。
- ⑥ 敬語・マナー・電話のかけ方 (事業所ごと)
- ⑦ 事前打ち合わせ
コロナ感染予防のために、事前打ち合わせは電話による打ち合わせとした。事業所ごとに、体験時間や仕事内容、持ち物や服装など事前に質問内容を考えるなど自分たちで考え、総合や放課後の時間を使って事業所に電話をかけた。事業所からの要望で1事業所は、直接出向いて事前打ち合わせを実施した。
- ⑧ エントリーシートの郵送… 7月



緊張しながらも敬語を使い事業所の方と打合せ



- ⑨ 打合せ内容・交通手段の確認（事業所ごと）
- ⑩ 職場体験学習事前指導（学年）
- ⑪ 職場体験活動・・・8月3日（水）・4日（木）

公共交通機関を使い、27の事業所に出向いて2日間の体験を実施した。



（榎村ファーム）



（さくら保育園）



（ファミリーマート）



（マオズマム キッチンカー）



（ヘアサロン サイ）

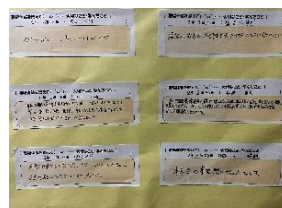


（めんくい亭）

- ⑫ 職場体験学習の報告書の記入（トライアルハンドブック）
- ⑬ 事業所への礼状送付・・・9月
下書き→清書→宛名書き→郵送職場
- ⑭ 体験の振り返り（学んだこと・気付いたこと）⇒掲示
- ⑮ 職場体験発表会原稿づくり・・・10・11月
（プレゼンテーション制作、発表練習）
パワーポイントで職場体験についてまとめた。
- ⑯ 「職場体験学習発表会」（私たちが学んだこと）・・・12月
12月8日授業参観で発表（保護者参観）
- ⑰ 未来パスポートの活用

3 成果と課題

体験後には、「積極的に動くことと自主的に動くことの大切さを学びました。積極的に動くことで達成感が味わえ、自主的に動くことで自分で考える力が身に付くと思いました。だから、以上のことを生活や学習に生かせるように頑張ることが大切だと思いました」「働くことは自分のためでもあり、家族やたくさんの方々のためでもあることを改めて感じることができました」「人の話をきちんと聞いてコミュニケーションを取ることと協力して頑張ることの大切さを学びました」などの感想をもつことができた。職場体験学習において生徒がいきいきと活動し、主体的に考え学ぶことを通して、生徒は自らの課題に気付き、協働で調査を進めることで学びを深め、体験によって様々な職業観を実感できたことが大変有意義であった。また、職場事業所の方々との関わりを通して、生きがいや勤労観、人とのふれあいの大切さなど、体験以上のことを感じ取り、将来の生き方について考える良い機会となった。さらに、事業所ごとに発表することで自分以外の職場体験の内容や感想などを友達と共有し、様々な職業について知るとともに、多面的・多角的な視点で将来について考えることができた。コロナ禍により、医療関係や介護施設、ペットショップ、大型食料品店などの事業所への体験学習を実施できなかったことが今年度の課題である。生徒の職業観を広く捉えるためにもより幅広い事業所での体験ができるよう働きかける必要がある。



1 はじめに

本校の教育目標「ふるさと十王を愛し、未来に向かって、心豊かにたくましく生きる生徒の育成」を達成するために、地域の特性を生かしながら「総合的な学習の時間」を進めてきた。

1学年の1学期は「心ゆたかな体験学習」を充実させることが、コミュニケーション能力などの生きる力を育むことにつながると考えた。2学期は次年度の職場体験学習につなげるために、働くことの意味や「職業人に話を聞く会」から働く上で苦労していることや仕事に必要なことを学習させた。さらに、3学期は十王中の伝統芸能（十王鶺鴒舞）を引き継ぎ、地域の特性や地域の歴史について学ぶ機会とした。

2 資料（実践事例、写真等）

(1) 心ゆたかな体験学習

① 生徒主体の体験学習とするために

年度初めということで、学級のリーダーの育成も視野に、4人の学級委員を心ゆたかな体験学習の実行委員とした。はじめに実行委員会でスローガンを話し合い、決定した。次に体験学習を成功させるための行動目標を各学級で検討し、さらに実行委員会で、学年の実態を考えながら、決定した。このように少しでも生徒主体の体験学習となるように、各学級や実行委員会での話し合い活動を多く設定した。

② 普段できない体験活動の実施

生徒からの体験活動の希望として、自然の中での活動や体を動かしたり、イラストを描いたりする活動などが挙がった。そこから、教師側が日立市の百年塾や西山研修所と連絡をとりながら決定する形をとった。2日間で次のような体験学習を行った。

【1日目】午前（十王中）

イラスト体験、バルーンアート体験、
笑いヨガ体験、チアダンス体験

※各講座とも講師の先生が指導、生徒は4つの中から2つを選択。

午後（西山研修所）

ウォークラリー、キャンプファイヤー

【2日目】午前（西山研修所）

座禅体験（住職の都合で急遽中止）、野外炊飯



(2) 職業人に話を聞く会

① 働くことについて

2 学年の 9 月に実施予定の職場体験学習に向けて「職業」について考える学習である。まず始めに家族や親戚などの身近な人に、仕事をする上での苦労やその仕事に向いている人、必要な資格等をインタビューすることから開始し、職業に対する興味関心が高められるようにした。次に自分の特性を知り、どんな職業に向いているかの適性検査を行った。

② 職業人の選出

まず、生徒からのアンケート調査をもとに消防士と保育士の 2 つを決定した。次に日立市の活性化のために活躍している方、十王町に関係する方を規準に選出した。実際に来ていただいた職業人は以下の 6 名である。

消防士、保育士、切り絵師（日立市や茨城県で個展）、
農業（有機栽培）、観光業（国民宿舎宿泊数日本一）、
経営者（生食パンや味噌プリン）



5・6 校時の 2 時間で生徒は、6 つの中から 2 つを選択して話を聞いた。

(3) 十王鶺鴒舞

① 2 学年から 1 学年への引継ぎ

部活動ごとにそれぞれの場所に分かれて、技術的な引継ぎを行っている。3 月までに「2 の舞」までできるように計画している。部活動ごとの先輩、後輩ということもあり、とても充実した活動となっている。



② 鶺鴒舞をより深化させるために

今後、鶺鴒の捕獲をしている方のお話を聞いたり、十王の歴史の学習をしたりしながら、生徒が十王鶺鴒舞をより深く理解できるように工夫していきたい。

3 成果と課題

(1) 成果

コロナ禍のため、現在の 1 年生は小学校で宿泊学習や異学年交流などの活動を行っていない。そのためか学年全体として、友だちの気持ちを考えて行動したり、ルールを守って行動したりすることができない生徒が多かった。しかし、「心ゆたかな体験学習」を通して、コミュニケーション能力が高まったり、友だちの気もちをを考えて話したり、行動したりする生徒が徐々に増えてきた。また、「職業人に話を聞く会」や「十王鶺鴒舞」の活動を通して、地域の方や先輩と接することで、目上の方への接し方を学んだり、時と場に応じたあいさつができるようになったりするなど、成長が見られた。

(2) 課題

1 学期に行事が多く、「心ゆたかな体験学習」のまとめから、地域の特色や十王の歴史などに内容を移行させる時間を確保するのが難しかった。また、コロナ禍のため、主体的な活動とするための話し合い活動や意見交換を行うことに戸惑いを感じる生徒も多かったようである。今後、経験を積み重ねられるようにしていきたい。

ふるさと中里を愛し、夢や希望をもって未来を切り拓く児童生徒の育成
～自ら考え、共に取り組む～

日立市立中里小中学校

1 はじめに

本校では、教育目標である「ふるさと中里を愛し、夢や希望をもって未来を拓く児童生徒の育成」を目指し、日々の教育活動に取り組んでいる。また、本校の児童生徒は、小規模特認校制度を利用し日立市内各地から通学している。

そこで、第7学年では、自分たちの住む日立市（以下、地域と示す）のよさを体験活動を通して発信する。この活動を通して、情報収集、活用能力の向上と郷土に対する興味・関心を高めることができるこの単元を考えた。

2 資料

(1) 単元名 地域を知り、自分の世界を広げよう

(2) 単元の目標

地域を知ることを通して、地域に残っている遺産や自然環境に着目して、地域の様々な情報を適切に活用し、発信することができる。

(3) 本時の学習活動

① 地域のよさをプレゼンテーションソフトを使い、わかりやすく伝えることができる。

② 展開

学習内容・活動	指導上の留意点 ◎評価
1 本時の学習を確認する。 地域のよさをPRできるか。	・これまでの活動を振り返り、意見が出されるように支援する。
2 グループ毎に発表会を行う。 A 日立市の公共機関 （かみね動物園・移動図書館かみね号・シビックセンター） B 里川の自然調査 先カンブリアの地層 C 日立の遊具 茨城の魅力	・質問や意見を取り、全体で共通理解させられるように支援する。 ◎調べた内容をわかりやすく発表し、説明することができる。
3 全体で交流する。	・各自で話し合った結果を、全体に意見として伝えられるように支援する。
4 自己評価を行う。 ・他グループの発表を聞いて分かったことや疑問点について自己評価カードにまとめる。	・個別に支援が必要な生徒には随時机間支援を行う。
5 本時の振り返りをする。	・発表した感想・アドバイスを発表者にチャット機能で送る。 ・友達の意見発表や他者のチャット機能を使った意見、講評などから、これまでの活動を認め合う。

(4) 当日の様子

パワーポイントを用いて、自分が調べた内容についてまとめたものを、グループ内で発表した。その後、グループ内での発表を全体で交流した。チームズのチャット機能を使い、質問や感想が全体に確認できるように電子黒板にリアルタイムに映し出した。電子黒板に映し出された疑問点や質問事項を確認して、発表者が答えることができた。

(5) 活動の様子



・地域の生物調査



・里川の調査の様子



・水生生物の個体数と種類を記録

(6) 生徒の振り返り

◎日立の地層について関心をもち「5億3300万年前の地層」についてインターネットを活用して調べた。地層ができた当時の様子をレポートにまとめる活動を通して、タブレットを活用して表現できた。

◎茨城県の魅力について、インターネットを活用して調べた。土地が安いことや都心に近く利便性があることを、他県との価格や距離の違いを表にまとめるなど、分かりやすく伝えることができた。

◎「里川の水質」について興味をもち、水生生物の調査を行った。調査結果を発表するための資料づくりを友達と協力して作ることができた。写真や表を活用して、プレゼンテーション用資料をつくる活動をとおして、わかりやすく人に伝えることができた。

◎「移動図書館たかすず号」について関心をもち、市のウェブサイト等を活用して調べた。写真やイラストを活用し、プレゼンテーション用資料を作成する活動を通して、わかりやすく伝えることができた。

3 成果と課題

(1) 成果

タブレットのチャット機能を使い情報交換の場を設けることで、発表が苦手な生徒でも自分の意見を表現することができた。お互いの考えを比較することで、一人では気付かなかった地域の良さに気付いたりすることができた。また、追究したい課題を見つけ、進んで調べようとする生徒の主体的な学びにつながられた。課題について情報を収集したことをパワーポイントでまとめ、プレゼンテーション用資料を作成し情報発信の力が付いた。

(2) 今後の課題について

自分たちが調べたことから課題を見つけ、解決に向けた手段を考え、どのような行動をすればよいか考え、話し合っていく必要がある。